



THE Y'S MEN'S CLUB OF AIZU
会津ワイズメンズクラブ
CHARTERED ON FEB. 1993



<No.267 会津通信>
2017年7月12日発行

2017～2018 年度主題

国際会長	「国境なき友情」
アジア地域会長	「ワイズ運動を尊重しよう」
東日本区理事 栗本治郎（熱海）	「広げよう ワイズの仲間」
北東部部長 鈴木伊知郎（宇都宮東）	「明日のために、いま土台を築こう」
会津クラブ会長 青山孝男	「新しい可能性を秘めて、共に歩もう！」

会 長	青山孝男
副会長	高橋眞美
書 記	高橋真人
会 計	高橋真人

《 例会 》 毎月第2水曜日 19:00~21:00 若松栄町教会 (☎ 0242-27-3944)

◇7月の聖句 ◇

平和を実現する人々は、幸である、その人たちは神の子と呼ばれる。

マタイ福音書5章 9節

7月例会プログラム

日時；2017年7月12日(水)19：00～

会場；若松栄町教会

司会；高橋眞美さん

- | | |
|---------------------------------------|----------|
| 1. 開会点鐘 | 青山孝男会長 |
| 2. ワイズソング | 一 同 |
| 3. 会長あいさつ | 青山孝男会長 |
| 4. 連絡・報告 | |
| 5. 聖句朗読 | |
| 6. 食前感謝 | |
| 7. 会食 | |
| 8. 協議 | 「会長活動方針」 |
| 9. Happy Birthday! Happy Anniversary! | |
| - あかべこ | |
| 10. 閉会点鐘 | 青山孝男会長 |

在籍者	5名	ゲスト	0名
出席者	5名	メネット	0名
*6月例会出席率 100%			
あかべこ	5,000円		
15-16年度合計	50,000円		

☆ 強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う。 ☆

「新しい可能性を秘めて、共に歩もう！」

楽しむワイズ活動から地域グループを支え、更には拡散していくことが会津クラブメンバーの秘めごとです。

少人数でも支えっていくことと、地域と共に歩むことは活性化にもつながります。

活動方針



<6月例会出席状況>

(1) メンバーの個性をワイズの力に！

5名で数年頑張り若返りを筆頭にしましたが、個人のつながりからの可能性を期待したい。



(2) できる活動をしっかりと継続する。

これからもメンバーの年齢を考えながら、無理なくできることをしっかりとアピールしながら継続する。

(3) 会津という風土を味方に！

東日本大震災から6年目、多くの方々からの支援は続いています。目立つことはしていません。この地に植えられたワイズの芽も24年目です。しっかりと歩みましょう、この地で。

(次回は高橋眞美さん)

理事メッセージ 東日本区理事 栗本治郎

東日本区21年目となる2017-2018年度がスタート致しました。

現在東日本日本区の状況は、会員の減少と高齢化が進み、15名以下のクラブも半数以上あります。クラブの弱体化です。そこで、今期の主題を「広げようワイズの仲間とし、英語表記を“Extension Membership & Conservation”としました。ズバリ「E・M・C」です。E 新クラブ設立につきましては、部にエクステンション委員会を設置し部として組織的に積極的に新クラブ設立に取り組む体制を作りたいと思い、各部長にエクステンション委員会の設置をお願いしました。既に委員会を立ち上げた部もありますが、各部とも出来るだけ早いスタートをお願い致します。M・Cにつきましては各クラブ、各会員が会員増強の気持ちを強く持ち、本気で新会員の勧誘・獲得に当たることです。キックオフに当たり、今期、本気で「E・M・C」に当たる気持ちを会員一人一人が共有して頂くことを期待致します。RBM(ロールバックマラリア)については、2010年から5年間展開されましたが、更に3年間の延長がされ、今年度が最終年になります。全クラブの献金目標の達成を期待しますと共に、ワイズ内だけでなく一般社会への広がりも期待されます。



会津だより

「ユニークダンスつばさ」総会の開催

6月28日「日本料理割烹 生粹」に10名参加しての2017年総会が開催されました。2016年活動は毎月の定例会と施設訪問そして交流会、会計決算の報告がされた。会津ワイズメンズクラブから活動の補助をしています。2017年の活動は定例会と施設訪問のほかに、ユニークダンスの講習会とリーフレット作成を提案し新たな活動としました。

役員は全員が再任され青山会長が代表を務めます。会津クラブメインの活動として今期もユニークダンスつばさを支援していきます。



6月の施設訪問

直前部長 長岡正彦(もりおか)メッセージ

拝啓、会津クラブの皆様。大会での青山会長はお元気そうで安心しました。高橋京子さんの体調が気になります。ご慈愛ください。

今年度、会津クラブ訪問ができなくて大変失礼いたしました。行かなければいけないと思いながら、この時期までできてしまいました。申し訳なく思っております。

福島放射能汚染と戦い、避難してきている方々を応援している活動は盛岡からも見て聞いて知っておりました。私たちも、昨年南相馬市に行き「相馬の野馬追」のお祭りを見物し、商工会議所の方から現状の説明を受け、全く復興などというものは出来ていない現状を知りました。また、宇都宮で開かれた、リーダーズアクトにおいて、南相馬市の高校生たちが立ち上がり、復興へ力強く活動している姿を紹介され、その本人たちと会えたことに感動しております。

関東圏のワイズたちに、「福島で作った電力で今まで生活してきたのだからもっともっと応援してほしい。」というメッセージを大会で直接アピールしたいと思って、そんな文章も用意しておりましたが、そこまでやると東北人のプライドが許さないと思い自嘲しました。しかし、福島への思いは決して忘れず、今年も野馬追のお祭りに行こうと計画しております。また、果物、野菜は福島産の物を見つけると必ず買うようにしております。部長職というものは大変ですね。青山さんの時代もさぞ大変だったろうとしみじみ感じ入ります。その節はたいへんご苦労様でした。会津ワイズメンズクラブの発展と、北東部、東日本区の発展に共に頑張っていきましょう。

会津の先人たち(会津若松市HPより)

近代看護教育の普及に尽力

山川 捨松(やまかわ すてまつ)(1860~1919)

鹿鳴館の華

明治時代の文明開化は、西洋文明を模範に、制度や文物を積極的に取り入れ、新しい風俗を生み出しました。特に、イギリス人の建築家コンドルが設計し、明

治 13 年開館した「鹿鳴館」では、日夜、舞踏会が催されました。その華々しい時代に、アメリカ留学で教養と語学力を身につけた山川捨松は、外国人賓客を相手に、社交界を彩りました。

「捨てたつもりで待つ」

山川捨松は、万延元年（1860）に、会津藩士山川尚江の五女に生まれました。兄弟には、東京大学総長となった山川健次郎などがいます。父尚江は、捨松が生まれて間もなく亡くなり、8歳の時、母親と共に戊辰（ぼしん）のろう城戦に加わりました。敗戦で一家が離散する悲劇の中、明治政府が派遣する日本最初の女子留学生に選ばれました。母親は、わずか12歳で旅立つ娘に、「捨てたつもりで待つ」との思いを込めて、「捨松」と改名しました。（以下次号）

◆ 今後の予定 ◆

- ◇8月例会 8月9日午後7時より
- ◇ユニークダンス例会
- 8月23日 会場：アガッセ